



滝工だより

北海道滝川工業高等学校 編集 総務部 2024.3.22 発行

〒073-0006 北海道滝川市二の坂町西 1 丁目 1 番 5 号

TEL:0125-22-1601/FAX:0125-22-1604 <http://www.takikawa-th.ed.jp>

第 70 回卒業証書授与式 挙行 3 月 1 日 (金) 本校体育館

先日、70 回目の卒業証書授与式が挙行され、39 名の生徒がそれぞれの未来へ向かって学び舎を旅立ちました。



式 辞

校長 馬 道 淳 一

厳しい寒さもようやく和らぎ、朝日にも春の日差しを感じる今日の佳き日に、同窓会長 入井浩樹 様、PTA 会長 長野智也 様をはじめ多くのご来賓、保護者の皆様のご隣席を賜り、北海道滝川工業高等学校第 70 回卒業証書授与式を挙行できますことは、教職員一同にとりまして大きな喜びであります。高段からではございますが、心から感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。本日ここに高等学校の課程を修了し、卒業の日を迎えることができましたことを心から祝福いたします。皆さんは、本校が創立 100 年を越える伝統を持つ、空知唯一の工業高校で、授業・実習はもとより資格取得や部活動、地域連携等を通して、級友やチームメイト、先生との協力や、協働機関の方々からの支援、地域の方々との触れあいを経験し、一人ひとりがそれぞれに輝き、成長した三年間でした。今、皆さんは新たな旅立ちに、夢と希望を抱きながらも、仲間との惜別の思いが交錯し、感慨深いことと思います。

さて、令和三年に高校に入学した皆さんは、令和時代の、いわゆる超スマート社会にこぎ出すこととなります。このスマート社会では、現在、ICTをはじめ、人工知能に関わる技術が急速に進歩し、将来、AI 等による職業の淘汰など社会構造の大きな変化が予想されます。また、カーボンフリー等、地球環境への取組により、エネルギーが化石燃料から電気や水素へと替わる、大きな技術変革が予想されています。将来の予測が難しい時代になり、私たちの生活も大きく変わる事でしょう。

これからの社会を創って行く皆さんに求められる「力」が、2つあると思います。まず一つは「社会の変化に対応できる力」です。これは今の社会の変化だけではなく、これからの長い人生において、どんな時代になってもその時ときに対応できる力。すなわち「人にしかできない、創造性や判断力、応用力」であります。

そしてもう一つは「他者と、互いを理解し合い助け合う力」です。社会の変化が激しい時代だからこそ、国や文化、宗教等を越えて、広い視点で互いを理解し、協力することが出来る力が大切です。皆さんの高校生活は、けっして恵まれたものでは無かったと思います。

今年度 5 類に移行され、見学旅行などの行事や部活動の制限が解かれ、日々の生活も通常にもどって参りました。コロナ禍を経験したことは決して悪かったことばかりではないと私は考えます。皆さんの、創造性や判断力、応用力といった力は、先に行われた課題研究発表会で十分見せてもらいました。そして、コロナ禍を経験した皆さんは、高校時代から、家族をいたわり、級友を気遣い、社会の迷惑に配慮した生活をしてきました。かつてこれほど、他者を意識し、思いやれる世代があったでしょうか。皆さんには、自律心と公共心、そして、他を思いやる優しい心が身に付いています。皆さんは、工業高校の「ものづくりの精神」のもと、理想を追求する真摯な姿勢と、妥協を許さない試行錯誤の中から諦めない心級友や後輩を思い遣る優しい心と、仲間達と一つの事を成す協働性を身につけました。

皆さんのこれからの人生は、決して平坦な道のりばかりではありません。辛いとき、苦しいときは、本校での経験を思い出してください。きっと、あらゆる困難を乗り越える力を与えてくれるはずです。皆さんがこの日を迎えるにあたっては、ご家族をはじめ、多くの方々の温かいご支援があったことを思い起こしてください。そして、このそれぞれの思いをしっかりと受け止めるとともに、自分を支えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れないでください。

結びになりますが、保護者の皆様、本日は大変おめでとうございます。そして、三年間、子どもたちをしっかりと支えてくださいましたこと、本当に有り難うございました。子どもたちは、立派に成長し巣立って行くことができます。これまで本校の教育活動にお寄せいただいたご理解とご協力に、心より感謝申し上げます。また、ご隣席くださったご来賓の皆様方にも重ねてお礼申し上げます。

卒業はゴールでもありますスタートでもあります。本校で学んだことに自信と誇りを持って大きく飛躍し、多方面で活躍されることを心より祈念し、式辞といたします。

今年度も、内定を頂いた企業や合格した学校の皆様、学校評議員、3年生の保護者を招いた課題研究発表会が行われました。地域と連携した取り組みや自分たちで新たに構想したものなど、1年間研究した成果を堂々と発表し、各班の努力が伝わる内容となりました。

電子機械科発表テーマ

1. おもちゃの病院
2. 自動水栓保護装置プロトタイプの開発
3. スクラップ&ビルド
4. 手作りゴーカートの制作
5. 地域貢献プログラミング教育の支援

電気科発表テーマ

1. 耕起ロボットの作製
2. ビニールハウス巻き上げ機の電動化
3. ロボットカーを用いた授業支援
4. 障がい者福祉分野における
「アナログはかり用 測定値通知装置」の活用

今年は、新たな試みとして近隣の小中学校に出向いた授業支援についての発表が二つありました。電子機械科5班は、コスモスデー（滝川市一斉授業参観日）の日に、小学校を訪問しプログラミングの体験授業を行いました。この発表内容は、令和5年度 第42回北海道高等学校工業クラブ大会において、環境奉仕大賞を受賞しています。

また電気科3班は、江陵中学校の3年生3クラスに対して、ロボットカーを使ったプログラミングの授業を合計15時間分行いました。この取り組みは、中学生からも「分かりやすい」「楽しく学べる」と大好評で、NHKのニュースにも取り上げられました。

一方、滝川市と連携した取り組みも3年目を向かえ、電子機械科2班と電気科1,2,4班の滝川市ICT農業利活用協議会から協力を受けた研究は、さらに内容が深まり、農業分野における工業高校の役割について新たな可能性を見出したといえます。特に、電気科4班は2月1日に北海道大学で開催された「探究チャレンジ・ジャパン」成果発表大会において、空知地区代表として出場し、高い独自性と装置の完成度の高さから高評価を得て、見事『ニトリ賞』を受賞することができました。

1,2年生は、3年生の発表を真剣に聞いていました。実施後のアンケートでは「素晴らしい内容が多く興味をもった」「地域貢献したい」等の意見があり、今後も期待が持てます。

